

条例の点検・見直しシート

		作 成 年 月 日	平成24年6月29日	
条例の題名	財産の交換、無償譲渡、無償貸付等に関する条例		公 布 日	昭和39年3月25日
条 例 番 号	昭和39年三重県条例第16号		直 近 改 正 日	平成23年3月23日
所管部局課	総務部管財課		電 話 番 号	059-224-2135
条例の概要	地方自治法第237条第2項の規定に基づき、議会の議決による場合を除くほか、財産を交換し、又は適正な対価なくしてこれを譲渡し、若しくは貸し付けることができる場合について定めるものである。			条例の 類型 財産管理 型
視点	項 目	回 答	検 討 内 容	
必要性	条例の目的は、制定後の時間の経過にかかわらず現在でも妥当性を有している。	はい	適正な財産管理を統一的に実施していくため、現在でも当条例は妥当性を有している。	
	条例の対象に対して、今後も公的な関与を行っていく必要が認められる。	はい	適正な財産管理を統一的に実施していくため、今後も関与を行っていく必要性が認められる。	
	条例に基づく事務・事業で、現在行われていないものはない。	はい		
	規制型の場合、現在の社会情勢の下で過度な規制となっていない。	該当なし		
	条例以外の手段で目的を達成する方法はない（規則、要綱等で規定する余地はない。）。	はい	地方自治法第237条第2項の規定においては、議会の議決によらない場合、条例によることとなっている。	
適法性	根拠法令がある場合、その法令に抵触していない。	はい	地方自治法第237条第2項	
	憲法、その他の法令等に抵触しているとの評価を受けるおそれはない（近年の判例動向に適合している。）。	はい		
	条例に規定する事務手続と実務上の事務手続との間に食い違いはない。	はい		
有効性	条例の目的と条例に規定する手段との整合が図られている。	はい		
	条例の目的は、県民カビジョン等と整合している。	はい		
	条例の規定の一部であっても、効果を疑問視する評価を受けたことはない。	はい		
	条例の規定の一部であっても、廃止した場合に明らかな支障が認められる。	はい	条例を廃止した場合、議会の議決を除くほかは、無償譲渡等が不可能となり、行政運営に明らかな支障が認められる。	
効率性	条例の目的の実現のために、条例が定める手段は必要であって、廃止すべき規定はない。	はい		
	条例の目的の実現のために、条例が定める手段は十分であって、追加すべき規定はない。	はい		
	関係する法令・条例との間において、条例に規定している手段との重複はない。	はい		
公平性	条例の執行に当たって、その効果及びコストの配分は適正である。	はい		
	条例の執行による効果が一部の県民に限られていない。	はい		
	条例の執行に伴うコストの負担が一部の県民に限られていない。	はい		
その他	条例の内容において、県民（団体）、NPO等県以外の主体との連携に配慮している。	該当なし		
	市町等から条文の改正を求める意見を受けていない。	はい		
点検・見直し結果	改正・廃止の必要はない	理 由	特 記 事 項	見直しに関する規定の有無
		業務を迅速的、効率的に行うためには当該条例は必要不可欠である。また、個々の規定をとってみても、法令に抵触するものではなく、運営上も支障があるものではないため、改正は不要と考える。		無